

ブナ林

ブナやイヌブナ、ミズナラなどの木が生える
 の せ みょうけんさん こん
 ブナ林は、現在、大阪府では能勢の妙見山、金
 ごうさん いずみかつらぎさん さんちよう
 剛山、和泉葛城山のいずれも山頂付近の一部に
 きちよう
 しか残されていない貴重な環境で、特に昆虫類
 ではこのブナ林でしかみられない種類がたくさん
 います。例えば、コルリクワガタ、ヒメオオ
 クワガタ、オニクワガタやエゾゼミ、アカエゾ
 ゼミ、エゾハルゼミ、エゾツノカメムシなどです。
 れんそう
 名前から連想されるように、寒い地方に多い生き
 ものがたくさん含まれています。セリバオウレン
 ふく
 やフシグロセンノウ、クロバナヒキオコシなど
 れいおんたい
 も、ブナ林など冷温帯の特徴となる植物です。



31. ブナ林 (和泉葛城山)



32	33	34	35
36	37		

- 3 .オニクワガタ 33.セリバオウレン 34.ヒメオオクワガタ 35.エゾゼミ
 36.フシグロセンノウ 37.コルリクワガタ

最後に、林全体について生きものの特徴をみていきましょう。

林の環境はタヌキやキツネ、アナグマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ニホンリスなどのほ乳類、シジュウカラやヤマガラ、コゲラ、オオルリ、サンコウチョウ、ハチクマやフクロウなどの鳥類にとっても、生活場所として大変重要です。これらの生きものは、行動する範囲が昆虫などに比べてとても広く、林の種類によってすんでいる種類に大きな違いがないのが一般的です。

また、湿度が保たれた安定した林床や地中には、タカチホヘビやシロマダラなどは虫類、昆虫類のガロアムシなどの生きものがすんでいます。普段はなかなか目にすることはできません。



左から
38. タカチホヘビ
39. ハチクマ
40. キツネ

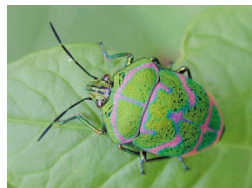
林の中を通る山道のわきの部分などは、特に「林縁部」とよばれています。ここでは、アカメガシワやタラノキ、ジャケツイバラ、スイカズラ、ヤブガラシ、ヌルデ、ノイバラ、ヤエムグラなど、林の中とは違って少し明るい場所を好む植物がたくさん生えています。それに伴って昆虫もたくさんの種類がすんでいて、むしろ林の中よりも多いくらいです。

キチョウやルリシジミ、ウラギンシジミ、コミスジなどのチョウ類や、ラミーカミキリ、アカスジキンカメムシ、クダマキモドキなども、このような場所で多くみられます。クロアゲハやカラスアゲハなどのアゲハチョウの仲間には、「蝶道」といって林縁部に沿って飛ぶ習性があります。

また、林縁部の植物は林の縁をおおい、林の中の明るさや湿度を一定にしたり、強い風が外から入りこまないようにする大切な働きがあります。



41. 林縁部




42. アカスジキンカメムシ

コラム 1 遷移

植物の生えていない場所でも、そのままにしておけば、やがて草が生え、木が生え、森になります。このような変化のことを「遷移^{せんい}」といいます。

例えば、山に近いある場所では、

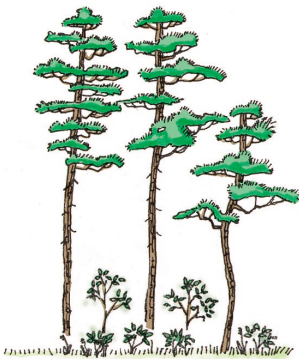
 植物が何も生えていなかった場所(裸地^{らち})が…



1～2年もたてば、メヒシバやエノコログサなどの単年生(寿命^{たんねんせい}が1年限り^{じゆみょう})の植物が生える草地になります。数年後には、ススキやセイタカアワダチソウなどの多年生(寿命^{たねんせい}が数年くらい)の植物が多くなっているでしょう。

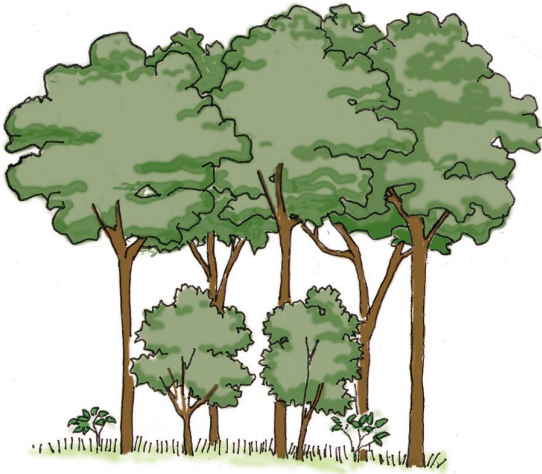


まもなく草地の中に、マルバハギやヌルデ、アカメガシワなどの低木^{じよじよ}がみられるようになり、徐々に林へと変化していくこととなります。



左. アカマツ林
右. コナラ林

数10年から100年もたつと、明るいところを好むアカマツやコナラなどの高木が林をおおいます。



やがて、シイやカシなどの日陰ひかげにも強い常緑広葉樹じょうりよくこうようじゆの高木が増えて、林全体をおおうようになります。

林床りんしょうは薄暗うすぐらく、明るいとを好むアカマツやコナラなどは育つことができません。このため常緑広葉樹林じょうりよくこうようじゆりんは、もう他の林にとってかわられることはなく、長い間続いていくことになります。

このように、これ以上林のようすが変化しない安定した状態きよくそうを「極相」といい、裸地らちから極相きよくそうになるまでには、300年以上かかるともいわれています。

このような植物の変化は、その場所の気候や土の状態によって異なります。それに肝心かんじんの種子が運ばれてこなければ、草や木は生えることができません。

また、「遷移せんい」という変化の流れは、台風などの災害ばつさいや伐採のような人間の活動によって、停止したり、ふりだしにもどったりします。例えば、アカマツ林やコナラ林たきぎは、薪や炭をつくるために伐採ばつさいされたり、落ち葉かきをしたりすることで、「遷移せんい」が進まなくなります。そのため里山さとやまの林は、アカマツ林やコナラ林でおおわれることになったのです。